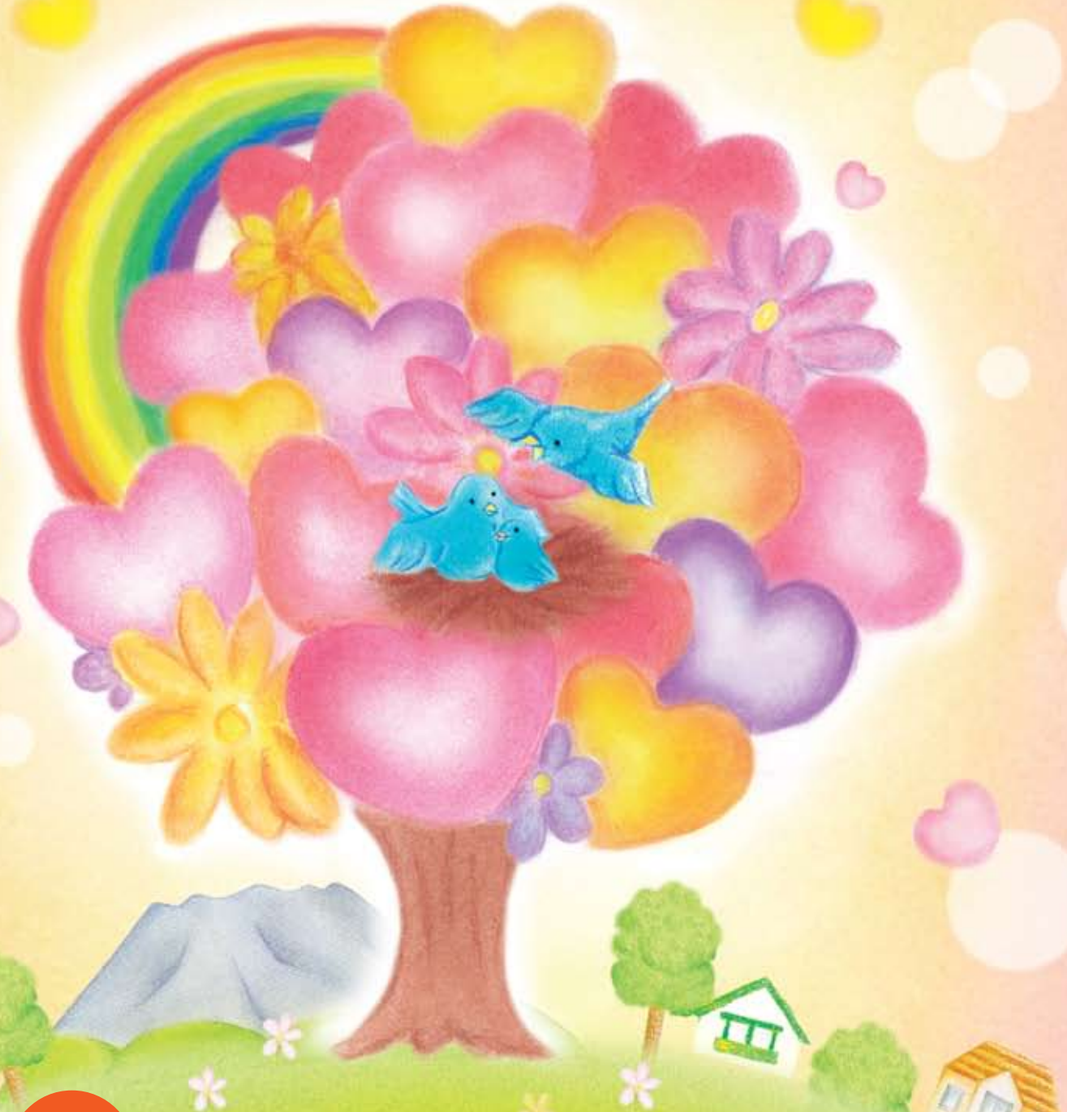
すてっぷ

vol.33

男女共同参画情報誌

発行／鹿児島市男女共同参画推進課
平成23（2011）年10月



特集 鹿児島市の男女共同参画

フロントインタビュー

特定非営利活動法人
イコールネット仙台 代表理事 宗片 恵美子さん

防災・災害復興に女性の視点を ～東日本大震災における女性支援～

鹿児島にゆかりの女性たち

明治26（1893）年5月20日、有馬三斗枝は父有馬高徳、母勢の三女として鹿児島市山下町に生まれた。10歳を過ぎた頃、三斗枝は水彩画の絵葉書を買い集め、12、3歳頃には学校の勉強よりも絵の勉強をしたいと思い始める。当時の少女たちの憧れの的であった出来たばかりの鹿児島県立第一高等女学校に入学するも中退し、18歳になる前に、画家を志し上京する。女性が洋画家になることが難しい時代だったが、明治44（1911）年、女子への洋画指導で功績を残した岡田三郎助の門を叩いた三斗枝。「望みを捨てろ」と一度は諭（さと）されるも諦めず、岡田氏が主宰していた本郷洋画研究所に通いながら、強い意志と努力により画家となった。

それからの三斗枝はただ画業に邁進（まいしん）した。近所の人の好意で子どもに絵を教えていたが、貧乏であった。そして大正3（1914）年、文部省美術展覧会に初入選。以後、精力的に力作を発表。大正15（1926）年、帝国美術院展覧会で女性洋画家として初めて特選となる。

三斗枝の画風は時代により変化を見せる。初期の頃は柔らかな色彩の人物画を描くが、これは師岡田の影響と思われる。また、昭和初めの頃からは、同時代に活躍した牧野虎雄のような力強い色彩とタッチの人物画に移り変わる。後年は体調を崩したこともあり、身近にある花などの静物画を描くようになるが、力強いタッチは変わらず、より大胆で鮮やかな静物画を描いた。三斗枝は潔癖なまでに画家であることに一生を捧げ、83歳で腕が痛みパレットが持てなくなるまで欠かさず制作出品を続けた。昭和53（1978）年2月25日、84歳で死去した三斗枝は、女性洋画家の先駆者として比類なき存在感を残し、後輩たちの道しるべとなった。

参考文献：「薩摩おごじょ 女たちの夜明け」「有馬さとえ画集」「女性画家の全貌。ー疾走する美のアスリートたちー」

出典『有馬さとえ画集』（鹿島出版会）

洋画家
有馬 三斗枝
ありまさとえ（1893-1978）

出典『有馬さとえ画集』（鹿島出版会）

赤い扇　大正14年

？ この言葉の意味を知っていますか？

●女子差別撤廃条約

女子に対する差別が権利の平等の原則および人間の尊厳の尊重の原則に反し、社会と家族の繁栄の増進を阻害するものであるとの考えのもとに、男女の完全な平等の達成を目的として、女子に対するあらゆる差別を撤廃することを基本理念として1979年の国連総会で採択されました。

日本は、1984年の国籍法の改正、1985年の男女雇用機会均等法の制定、家庭科教育の見直しなどの条件整備を経て、同年に批准しています。

●ワーク・ライフ・バランス

仕事と生活の調和のことで、実現に向けて官民一体となった取組が進められています。仕事と生活の調和が実現することにより、男性も女性も、あらゆる世代の人々が、仕事や子育て、介護、自己啓発、地域活動など様々な活動を、自分の希望するバランスで展開でき、仕事の充実と仕事以外の生活の充実が好循環をもたらすとされています。

編集後記

東日本大震災により被災されました多くの皆様に心からお見舞い申し上げますとともに、犠牲になられた方々のご冥福を衷心よりお祈り申し上げます。

今回のフロントインタビューは、被災地の一刻も早い復旧、復興が待たれるなか、被災地の現場で被災女性支援のために多様な活動に積極的に取り組んでいらっしゃいます宗片さんに、ご協力をいただきました。

「災害は忘れた頃にやって来る」といわれております。いつどこで、このような災害が起こるかわかりません。私たちは、防災・災害復興の分野での男女共同参画の視点が重要であることを再認識するとともに、自分たちでできることから実践していきたいと思います。

すてっぷ vol.33
発行／鹿児島市市民局市民部男女共同参画推進課
〒890-0054 鹿児島市荒田1丁目4-1 TEL.099-813-0852
制作／斯文堂株式会社

表紙解説
ハートや花、虹を木に咲かせ、男女共同参画社会の成長を表現しました。幸せそうに暮らす鳥の家族は、男女が支え合って暮らしていく、理想の姿を表現しています。

本冊子は、紙へのリサイクルに適した材料のみ用いて作成しています。